

平成 29 年度第 2 回あいち医療ツーリズム推進協議会 議事概要

日 時：平成 30 年 2 月 13 日（火）午後 2 時 58 分から午後 3 時 57 分まで

場 所：愛知県議会議事堂 1 階 ラウンジ

出席者：（委員） 14 名

（事務局）保健医療局長、保健医療局次長、健康福祉部技監、
医務課長 他

傍聴者： 1 名

1 挨拶（愛知県保健医療局 松本局長）

2 議題

(1) 平成 29 年度の医療ツーリズム推進に係る取組状況について

（愛知県医務課 兼子課長補佐）

- 資料 1 により、以下について説明
 - ①あいち医療ツーリズム推進協議会の開催
 - ②シンポジウムの開催
 - ③国際医療コーディネーターの育成
 - ④医療機関向けアンケートの実施
 - ⑤国家戦略特区等

（会長 愛知県医師会 柵木会長）

- ・ 今の説明について御意見はあるか。
→特になし

(2) 平成 30 年度の医療ツーリズム推進に係る取組予定について

（愛知県医務課 兼子課長補佐）

- ・ 資料 2 により、以下について説明
 - ①あいち医療ツーリズム推進協議会の開催

- ② トップセミナーの開催
- ③ 国際医療コーディネーターの育成
- ④ 医療機関向けアンケートの実施
- ⑤ 海外PR事業
- ⑥ 国家戦略特区等

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- ・ 今の説明について御意見はあるか。

(医療法人偕行会 川原会長)

- ・ トップセミナーの開催は非常にありがたい。「中部メディカルトラベル協会」の会員に占める医療機関の割合は四分の一に過ぎない。ぜひトップの方に呼び掛けてもらい、医療機関にもっと積極的に参加してもらえよう盛り上げてほしい。なお、日本の旅行業者なども、中国系の業者と比べると熱心さが足りない。

(あいち健康の森健康科学総合センター 津下センター長)

- ・ トップセミナーと担当者向けの国際医療コーディネーターの育成とを、組織的・戦略的につなげ、有機的に実施することが重要だと思う。

中国では医療制度改革により、生活習慣病関連が対象になる、従来の医療提供体制を変更していると聞いている。それ以外でも国の方針により大きく動いてしまうので、情報を得ておかないといけない。せっかく用意しても、そもそもの方向が変わってしまうことがある。

ドバイ空港でメイヨー・クリニック（米国）のサインを見た。中国等からの利用者を増やしたいなら、セントレアに定期的に直行便のある国に向けて、利用者が目にする場所に愛知の医療をPRすると良いかもしれない。

(医療法人偕行会 川原会長)

- ・ 中国では、介護・リハビリ・人工透析・成人病（糖尿病）などが大きな医療

目的だと思っている。一方で、社会主義国として給料が安いために医師・看護師が不足しており、将来的な医療費の増大も見込まれていることから、大きなマーケットのチャンスがあると考えている。

ただし、受入側の医療機関の体制を整えていかないと、愛知へ来てみたら不満だったというのではいけないので、空港のような場所での広告は慎重にやらなければならない。藤田保健衛生大学が最近整備されたくらいの施設でないと、タイや韓国などには勝てない。そういう点からも、トップセミナーは大変ありがたい。

(3) その他

- ビデオにより「VoiceTra」（音声翻訳アプリ）について紹介

(医療法人偕行会 名古屋共立病院 平岡事務長)

- 実証試験への参加を受けての報告
 - ・ 2016年から3回に渡り、日英・日中のタブレット、ウェアラブル端末により臨床試験を行った。

操作が難しくなく専門用語も簡単に伝えられる点は良いが、長文に対応できずゆっくり話さないといけない点や、英中以外に非対応な点などが良くない。

全体としては、通訳者不在の夜間・休日を中心に必要なツールと考えているが、まだ不安なので、通訳者と併用する必要はある。

全国 12 病院で臨床試験がされており、来年度から臨床試験を経た商品化を目指すとしている。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- ・ 端末の価格はいくらか。導入する場合は何台程度を想定しているのか。

(医療法人偕行会 名古屋共立病院 平岡事務長)

- ・ 価格はまだ聞いていない。各病棟や受付で 10 台近く要と思う。

(愛知医科大学 佐藤学長)

- ・ 日常の診療では電子カルテを使うので、音声言語翻訳がそのまま文字化されて残らないと難しいが、どのような状況か。

(医療法人偕行会 名古屋共立病院 平岡事務長)

- ・ 富士通からは、電子カルテに落とし込まれるシステムになると聞いている。ただし、電子カルテ自体が富士通製でないといけない。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- ・ ある程度は要約しないと、そのままだと電子カルテとしては長くなり過ぎてしまう。専門用語は異なるが、システムとしては医療分野に限らないだろう。

○ 自由発言

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- ・ 参加者が増えて、こういう場で御披露いただいて、医療ツーリズムの活性化につなげるというのが第一かと思う。

(医療法人偕行会 川原会長)

- ・ 2030年までに言語の障害がなくなるという説もあり、言葉の問題は今後さらに良くなっていくと思う。

(愛知医科大学 佐藤学長)

- ・ アプリの形で使えないと、その都度、端末を更新するのは難しい。

(独立行政法人地域医療機能推進機構中京病院 絹川院長)

- ・ iPhoneレベルのアプリはそれなりに使えた。Googleの考え方では、無料で提供することで医療現場における会話のビッグデータを得て、次の商売につなげていこうとする。そういう発想でないと広がらない。

(名古屋大学医学部附属病院 石黒院長)

- ・ 医療データは個人の極めて機密な情報（家族の既往症・年齢・性別など）を含むので、イントラネット環境でなくインターネット環境で第三者が介在すると、人権侵害の恐れがある。

(会長 愛知県医師会 柵木会長)

- ・ バランスの取り方が大事ということだろう。

(藤田保健衛生大学 星長学長)

- ・ 中国からの集客に一番苦勞している。ライバルは、各国ブースを設けているソウル大学や、20 数か国語に対応し世界中との直行便で結ばれているラッフルズがあるシンガポール。そういう環境とどう戦うか。日本が勝っているところ、日本の良さをどう出していくか。安くするとタイへ行ってしまふから安くはできない。

県を挙げて取り組めば患者が集まるという考えは、とんでもない。皆、東京や大阪に行ってしまう。現実を知って議論する必要がある。

(医療法人偕行会 川原会長)

- ・ 日本の保険医療制度は、国民に対して安価で良質な医療を提供しようとする。例えば、DaVinci の技術料は安すぎて、病院が償還できない。外国の富裕層から見れば、極めて安いために良質でない医療と評価されてしまう。日本には高額療養費制度があるのだから、もっと高くしないといけない。厚労省は医療を社会保障制度の枠内に置くので、このような発想になってしまう。

(中部メディカルトラベル協会 木村事務長)

- ・ 東京や大阪には来ている。中国やベトナムに行くと、東京や大阪に行きたいと言われる。

医療の受入体制は少しずつ整備されてきたと思うが、治療だけのために来る

人はあまりいなく、それ以外のツーリズム面（買い物や観光）で一緒に情報発信できればもう少し集客できるかと思う。まだ愛知県のイメージが低いので、県を含めて取り組んでほしい。

（会長 愛知県医師会 柵木会長）

- ・ そのあたりの問題意識があるから、知事も取り組んでいるのだと思う。個々の医療機関の努力に、行政が関与していくという姿勢は見える。

（医療法人偕行会 川原会長）

- ・ 東京や大阪は、個別の医療機関が努力しているだけ。行政が頑張ったとしても、こんな理解のある医師会長がいる県はないので、これが愛知の強み。

健診でなく治療が大事なのだから、「愛知県はこういう治療ができる。素晴らしい技術がある」とPRしないといけない。来年度の北京でも、各機関が存在するという宣伝だけでなく、「がんならこんな治療ができる」など、そういうキャンペーンをしてほしい。

（会長 愛知県医師会 柵木会長）

- ・ 各医療機関の努力に尽きるということかと思う。

以 上